

くすのき



岡本小学校 学校だより

No.5

令和3年6月15日

『生き生き学校』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育



みんなで創る岡本小学校

5月26日6校時、今年度初の代表委員会が開かれました。昨年度は開くことができなかったため、2年ぶりの代表委員会です。

代表委員会には、3年生以上の各学級の代表者2名が参加します。会の運営や進行は、運営委員会が行います。

第1回めの代表委員会の主な議題は、「1年生のおむかえ集会について」でした。

この提案に先立って、「1年生が早く学校生活に慣れるためにどんなことをしたらよいか」について、6年生が話し合いをもちました。そこで決まったことが『全校おむかえ集会』をしようということです。主なねらいは、「1年生には小学校の楽しさを知ってもらう」こと、そして「1年生と2～6年生が互いのことを知る」ことです。

代表委員会では、この目的がかなえられる「おむかえ集会」にするために、どんなことができるかについて話し合われました。

岡小を知ってもらうために、校歌を教えてはどうか

1年生が学校を知るために、スタンプラリーをしてはどうか

全学年がドッチボールをして交流したらどうか



今年度、初めての代表委員会でしたが、「出し合う→くらべる→まとめる」の手法を使い、いろいろな意見が出され、活発に話し合いが行われました。

また、6月8日には、なかよし班が結成されました。なかよし班とは、総勢30名ほどで構成されている1年生から6年生までの異学年集団です。全部で12班あります。それぞれの班では6年生がリーダーとなり、この日は自己紹介と清掃分担について話し合われました。清掃



班は、さらに2学年ずつの小グループ編制となるため、高学年の児童の多くがリーダー的役割を担うことになります。高学年のリーダー性を育むことも、なかよし班活動のねらいの一つです。

なかよし班が初体験となる1・2年生は、いつもの学級集団にいるときよりも、緊張感をもって臨んでいました。低学年にとっても、同学年の仲間といるときの自分と、異学年の仲間といるときの自分とでは、きっと心持ちが違うのでしょうか。

異学年集団という場では、同学年では経験できない別の役割を担うことができ、子どもたちにとっての新たな居場所、生き生き活動できる場所となりつつあります。6月下旬には、なかよし班の交流を目的としたスーパードッチボール大会が行われます。

子どもたちの生き生きした表情が見られることが、今から楽しみです。

自分たちの学校を「より楽しく」「より良く」しよう、高学年を中心に、自分たちの手による学校創りが本格的に始まりました。

体力テスト～異学年交流～

6月第2週に、体力テストを実施しました。2学年ずつがペアを組み、上級生が下級生を手助けしながら学習を進めました。ここでも、異学年交流の良さを生かしています。

下級生のがんばる姿を見て、上級生も負けてはいられない…記録が伸びていきます。互いにWIN-WINの関係を築くことができました。



なつかしい幼稚園・保育園の先生方と再会しました！

6月2日(水)、幼保小連絡会が行われました。入学した1年生の成長を伝え、互いの情報交換を通して、今後の適切な指導に役立てることをねらいとして行われました。

1年生のそれぞれの学級では、国語の授業を公開しました。45分間しっかりと机に座り、教師の発問に手を挙げて発表する姿に、幼稚園・保育園の先生方は成長を感じていました。また、昨年度はこの会が中止になってしまったため、同時に2年生の授業も公開し、参観していただきました。

保育園・幼稚園の先生方から寄せられた感想の一部を紹介します。

- 子どもたち一人ひとりの良さが生かされており、安心しました。
- 学校生活にもすっかり慣れ、生き生きしている姿がみられました。
- 2年生の成長ぶりに驚きました。
- ICTを使って視覚化され、授業がわかりやすかったです。
- 休み時間も子どもたちと外遊びをしている先生方の姿に感動します。



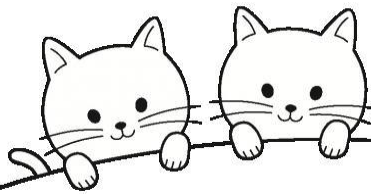
ノーマスク少荷物傘さし月間再開

6月になり、一段と日差しが強くなりました。熱中症対策として、今年度も「ノーマスク少荷物傘さし」登下校を推奨します。傘をさすことで発汗が17%抑えられ、ソーシャルディスタンスをとることもできます。また、傘の有無に関係なく、暑い日にはマスクを外すよう、朝の声かけをお願いします。

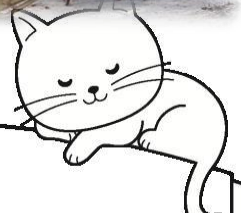
おやじの会始動！

6月13日(日)、今年度のおやじの会の皆様が集まり、校庭の側溝の泥上げをしてくださいました。

蒸し暑い中での作業にもかかわらず、9名のお父様たちのご協力により、見る見るうちに側溝がきれいになっていきました。さすがの連係プレー…岡小は、こうした縁の下の力持ちに支えられています。



わたしのひとりごと…



- ① 最近学校であった「よかったこと」を、3つ紹介します。
ある日の朝のこと、通学路で、1年生の弟の荷物をもってあげる優しいお姉さんの姿に出会いました。心がほんわかしました。
 - ② 学校に到着すると、環境委員会の子どもたちの有志が、校庭の落ち葉はきや石とり、草取りをしてくれていました。自分たちの学校を自分たちで守ろうと意欲的に動いています。心がほほかほかになりました。
 - ③ 校舎の2棟から3棟に抜ける通路の天井に、鳥が巣を作らないように、網をかけてあります。しかし、どこかに小さな隙間があったのでしよう。シジュウカラが巣をつくり、雛がかえっていました。しかし、親鳥は網目の隙間が分からなくなつたのか、巣に戻ることができません。つがいの親鳥は、くちばしに雛のエサを加え、しきりに鳴いていました。これを見かけた教頭先生が、網を外し、雛を放ってくれました。親鳥と雛たちが無事に再会。心がぼっかばかになりました。
- 先日読んだある本に、「子どもの自己肯定感を高めるためには、まず母親(養育者)の自己肯定感を高める必要がある」と書かれてありました。共感します。
- 子育てがほぼ終わっている私ですが、自分自身のために、「自己肯定感を高めるためのエクササイズ」の一つを実践しています。それは『夜寝る前に、その日よかったことを3つ見つけること』です。感謝のレベルをあげる練習になるそうです。2つまでは割と簡単に見つかるのですが、3つめを見付けるのに少し苦労しました。しかし、一週間も続けていると、心が自然と「いいこと」に向くようになっていて自分がいいます。今では「これ、いいね」と思うことが、1日のうちにいくつも見つけられるようになりました。幸せ感アップです。
- 子育てがなかなかうまくいかないなと落ち込むより、まずは、自分自身の自己肯定感をアップさせてみてください。だまされたと思って、ぜひやってみてください。
- 日々、子どものためにこんながんばっている皆さんです。親の幸せは、100%子どもに伝わります。